

竹原管内景況調査

3月の景況DIは、製造業・非製造業ともほぼ横ばい

当会議所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、平成30年3月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

調査概要

- 【調査時期】 四半期毎に調査(年4回実施)
- 【調査期間】 平成30年3月
- 【調査対象】 当商工会議所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	17	13
建設	6	3
小売	21	7
サービス	13	8
合計	57	31

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



	H28.6	H28.9	H28.12	H29.3	H29.6	H29.9	H29.12	H30. 3	H30. 4~6
全体	-17	-11.4	-5.2	-2.5	-8.3	-6.2	3.3	3.2	3.3
製造	-15	6.6	5.8	-7.7	0	7.2	0	0	7.7
非製造	-18.2	-20.7	-14.3	0	-15	-16.6	5.9	5.6	0

3月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は同ポイントで、非製造業は0.3ポイント悪化しています。3月と比べて4月～6月までの見通しは、全体では0.1ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

【好転】

- ・主要取引先からの受注増加。新規分野の事業化。(製造業)
- ・輸出増加の為。(製造業)
- ・海外向けの受注上昇により売上増となった。(製造業)

【悪化】

- ・景況としては厳しくなっていると認識している。生活必需品については節約志向が強い。(製造業)

●平成30年度の業界動向の見通しについて

- ・景況は、上昇傾向だが原材料費の値上がりもあり、横ばいになると思われる。(製造業)
- ・食品業界としてはより2極化が進むと考えている。生活必需品はより安く価格意識が強くなり、一方で付加価値の高い商品(プレミアム、健康)の購買(消費)も進むと考えられる。(製造業)
- ・景況は、上昇傾向だが原材料費の値上がりもあり、横ばいになると思われる。(製造業)
- ・人口減少が激しく、高齢化が進み将来的には期待できない。(小売業)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)